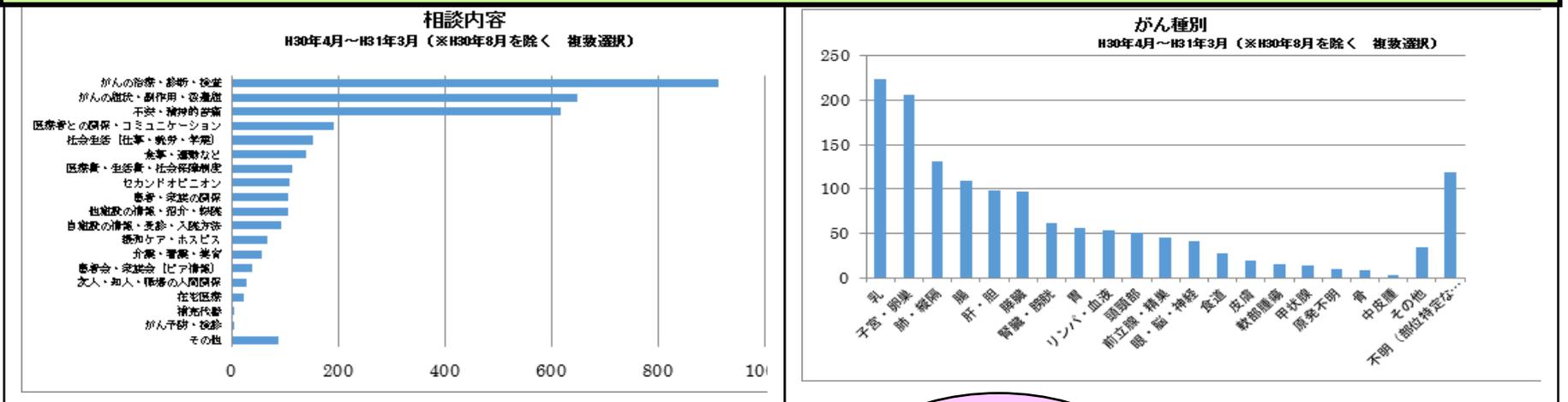




平成が終わり令和の時代が始まりました。新しい時代も穏やかで平和な時代であってほしいですね。大型連休も終わりますがすがすがしい緑の季節ですが、季節の変わり目、体調管理も大切ですね。

国民の2人に1人は一生のうちで一度はがんにかかります。しかしがんの5年相対生存率は60%を超え早期に適切な治療を受ければ治る疾患です。「がん」と診断されると患者さんやご家族の方は治療や体への影響、経済的な負担等様々な不安で頭がいっぱいになります。相談室ではがん患者さん・ご家族、地域住民の方にがんに関する正しい情報の提供と療養生活に関する相談支援を行っております。まだまだ存在を知られていないこともありますが、患者さんやご家族の悩みに寄り添い一緒に考えていきます。今回、平成30年度に相談室によせられたご相談の集計をあげてみました。相談室ではどんな悩みが多いの？ どんな方が相談しているの？ 病気はなに？ 悩んでいるのは自分だけではないみたい、私もちょっと話を聞いてもらおうかな、と書いていただければ幸いです。

平成30年度は1452件の相談を受けました。前年より増加しています。相談の内訳では東北大学病院の患者さん、ご家族の方が59%、他の病院の方が37%で、面談による相談が約60%でした。がんの種類では乳がんが一番多く、次いで子宮・卵巣がんが女性のがんの相談が多くなっています。女性の方が相談しやすい環境なのかもしれません。10月にはノーベル賞をもらった免疫療法が話題になりましたが、相談内容では「がんの治療・診断・検査」の相談が一番多くなっています。次いで「がんの症状・副作用・後遺症」でした。なかでも抗がん剤の副作用の一つである脱毛について悩んでいる方が多く、頭皮ケア、ウィッグや帽子の情報提供をおこないました。



がんサロン『ゆい』 講話をご紹介します

1月の講話：漢方でこころと体を元気にしよう！
東北大学病院産婦人科・漢方内科 大澤 稔先生

毎年開催している人気のある講話です。「漢方薬の考え方」「女性によくある困った症状にこんな漢方!!」「がん治療に負けないための漢方について!!」というテーマに分け女性特有の症状やがん治療の副作用に効果のある漢方薬についてわかりやすくお話がありました。漢方薬でがんの症状や治療の副作用なども軽くすることができるということです。がん治療では支持療法として漢方薬の開発と普及をすすめることは国の課題にもなっています。副作用だからしかたがない、我慢するしかないときらめず是非、主治医に相談してみてくださいね。

2月の講話：「最新のがん治療」
東北大学病院腫瘍内科 城田 英和先生

今回初めてこのテーマで講話を企画しました。腫瘍内科で日々診療にあたる医師から、がんの一般知識、標準治療（根拠ある最良の治療）、体の免疫機能を使った免疫療法、さらには最新の治療であるゲノム医療についてお話しがありました。それぞれの適応や副作用、見直しなどの内容でしたが、特にゲノム医療では複数のがん遺伝子変異を調べて患者個々のがん細胞の特徴にあった治療効果が見込まれる薬を選び、より効果が期待できる抗がん剤治療を目指し当院でも準備が進められているという話がありました。最後に巷には「最新がん医療」という言葉があふれていますがその中には根拠がはっきりしないものやビジネスとして行われているものがあり正しい情報を知り感わされないようにと注意喚起されました。講話は専門的でむずかしい内容もありましたが皆さん真剣に聞き入っていました。「がんの治療の最新情報を聞くことができがん治療に明るい希望を感じた」、「今の治療を信じて頑張る」といった感想が寄せられました。

がんサロン『ゆい』では今年も楽しい企画を予定しています。みなさん参加くださいね。

今年のルーフ・ライブは8/31・9/1です！

トピックス

小児がん相談の窓口ができました！
東北大学病院は小児がんの拠点病院に指定されています。大人だけでなくお子さんのがんについても専門の相談員が対応しています。

がんの遺伝子を調べその遺伝子に合った薬を見つけて治療をするゲノム医療がすすんでいます。これまではがんの組織が必要でしたが、4月1日から血液で検査ができるガーダント 360 が追加されました。自由診療になりますが、手術をしていない患者さんでも遺伝子検査ができます。希望される場合は主治医にご相談ください。

宮城県のがんに関連した情報を集約した「サポートハンドブック」が新しくなりました。宮城県がん診療連携拠点病院が共同で作成したものです。正確な情報が得られる相談窓口や患者会、諸制度等を紹介していますので迷った時には是非手に取りご活用ください。県内のがん拠点病院のがん相談窓口にあります。